（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3171600236		
法人名	医療法人社団日翔会		
事業所名	グループホームいちょうの木		
所在地	鳥取県日野郡日野町根雨899－1		
自己評価作成日	平成21年9月23日	評価結果市町村受理日	平成21年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成21年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ハッピーマンスリー3ヶ月に1回テーマを決めて実施、評価する事で職員の意欲の向上とレベルアップを図っている。
通所介護のお客様、グループホームのお客様との交流の場があり、役割を分担しながら生きがい、やりがいを引き出している。お互いに支え合い、生き生きとした表情、笑顔がみられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

かつて出雲街道の宿場町として栄えた古い町並みに立地するグループホームで、認知症対応型デイサービス事業も行われている。同法人の介護老人保健施設が隣接しており、人及び資源的に様々な協力体制が得られている。管理者及び職員は、日々利用者に寄り添いながら、利用者の思いを受けとめること、笑顔を引き出すことを大切にし、ゆったりとした生活を支援している。高齢化する利用者の機能維持のため、日常的に体操やレクリエーション、計算、漢字などの脳トレーニングを支援している。訪問日は、ユニットごとに唱歌、民謡を楽しむ利用者の盛んな手拍子と溢れる笑顔が印象的であった。日帰り温泉ツアーも実施され、利用者よりも参加したいとの声が出ている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でのなかでの安心した暮らし、 関係性の継続を大事にしていくことを理念にし 日々実践につなげている。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を理解し、日々利用者の思いを受けとめること、笑顔を引き出すことを大切にしながら、利用者に寄り添い生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域行事、いちょうの木行事に 参加して頂き、交流を図っている。 いちょうに木に来て頂ける環境作りを実践している。	自治会に参加しており、根雨祭り、コンサートなどの地域行事へ利用者の参加がある。また端午の節句会などホームの行事への地域住民の参加があり、双方向の関係作りがなされている。ホーム便りを近隣施設や商店に配布している。時には、玄関先コーナーに近隣住民の来訪がある。	小さな町であるが、職員で一層アイデアを出し合い、ホームの存在をより周知してもらえるような取り組み、近隣住民が気軽に来訪できるような工夫、利用者が出かけてゆく先の開拓が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対して認知症の理解を広める勉強会は、 行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自施設の取り組みを報告し、意見を頂いてサービス向上に活かしている。	主にホームの職員、利用者家族、町福祉課の担当者で構成されており、活動報告、意見交換などが行われている。当初町の担当者のアドバイスにより3ヶ月に一度の開催となっている。今後2ヶ月に1回の開催に切り替える予定である。	ホームの課題や勉強会などテーマを決め、それに応じてメンバー構成も柔軟に。自治会長が多忙であれば、区の他の諸役員の参加を呼びかけることも期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者確保や、いちょうの木情報は月1回以上は依頼・提供しているが、市町村からの情報提供は非常に少なく、運営推進会議以外はこちらから求めない限り無い。	現在、福祉課の担当者より介護サービスに関する情報提供を受けている。また運営推進会議において意見・助言を得ており、関係作りが進んでいる。	現在の職員が異動した場合にとぎれてしまわないように、引き継ぎを必ずしてもらうよう心掛けてほしい。今後も密な協力関係が継続し、課題解決に共に取り組んでいくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行っており、マニュアルを常に取りやすいところに置いている。 日中は自動ドアは電源を入れており、1Fの入口は日中鍵はかけていない。	職員は、身体拘束をしないケアについて学んでおり、正しく理解している。1階は朝～夕方まで施錠はなく、2階のユニットにおける開錠について、時間を決めて行い、少しずつ多くするよう試みている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会（虐待防止法に関する理解や虐待防止を訴えている）を行っているとともに実際の現場においても職員同士が意識して指摘注意をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への説明や勉強会は行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、自施設のケアに関する取り組みや、考え方等時間をとって丁寧に説明し、納得して頂いている。 契約解除については、家族にきちんと説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様の言葉や態度からその思いを察する努力をし、不安や意見等はユニットミーティングで話し合いをしている。毎月家族には、手紙で暮らしぶりをお伝えし、病院受診や特変等すぐに伝えるべきことは、電話にて報告をしている。	家族への連絡時はもとより、利用者・家族が共に参加する行事や、法人アンケートを実施し、意見を表出する機会としている。利用者及び家族からの意見はミーティングで話合い運営に反映させている。	今後、意見、要望に対するホームとしての回答を公表する予定であるとのこと。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務においてリーダーが職員からの意見を吸い上げ月１回のユニットミーティングや職員会、委員会、面接等を行い把握している。	職員が研修等で学んだ実践方法や、利用者との関わりの中で得た職員の気づきをケアに取り入れている。1階、2階に各々リーダーがいて職員の意見には耳を傾けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、法人独自の「こやまケア自己評価」「こやまケア外部評価」「360度評価」「個人目標」等を行い、各自が向上心を持って働ける職場作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた研修を法人内外で行っている。事業所内の勉強会は月1回参加しスキルアップを図っている。グループの全国組織で行う研修にも参加しマネジメント力を養うようにしている。フォローアップも行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の相互研修、法人内のGH相互研修に参加し、事業所外の人の意見やケア方法を、持ち帰りミーティングの中で何が出来るか話し合い良いと思うことや、出来る事から初めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や相談があった場合は面談をし、本人の求めているものにじっくり話し状態把握をしている。事前に通所介護の利用も勧めるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が求めているものを理解し、施設で対応出来る事は何かをきちんと話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や御家族の思いを確認しながら支援の内容の提案や相談を繰り返しながら必要なサービスにつなげるように話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が主役になれる場面作りをし、職員に技を教えて頂ける等支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の思いや様子、職員の思い等を伝えている。外泊や外出等勧めたり行事等に誘っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や運動会、行事等地域のなじみの方との交流が途絶えないように支援している。	自治会の運動会、根雨祭りなど地域の行事に参加している。地元のスーパーでの買い物や近隣の滝山公園へのドライブなど、利用者にとっての馴染みの関係を大切にしている。	今後もきめ細やかなアセスメントを続け、関係継続へのアプローチが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同志の助け合いの場面は日常的に支援できているが、孤立しがちなお客様には職員が寄り添い交わるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれても施設内で仲良しだった方にお客様、職員と一緒に面会に出掛けている。 経過、その後の様子等知り、フォローし相談や支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって何が最良なのかを、本人との話やご家族からの情報交換から汲み取り検討している。	職員は、本人の思いや希望について聞き出す、あるいは言葉にならない思いを汲み取ることを大切にしている。聞き取り用のノートを食堂に設置し、利用者の声をキャッチして書きとめる試みをしている。	利用者の思いを書き留めるノートがさらに活性化することが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族・本人から詳しくアセスメントを取ったり、担当ケアマネから情報をもらったり、入居してからも日常の会話の中から少しずつ聞き取り情報の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の生活リズムを把握し、出来る事は支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族へ思いや要望を聞き、ケアプラン実行・モニタリング・評価・カンファレンスを繰り返し行っている。	本人及び家族の希望を取り入れた介護計画となっている。利用者毎に毎日プランごとのチェックを行い、毎月の評価を行っている。本人にとってより良い計画を作成するためのアセスメントにも力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表には、食事量、排泄、バイタル記録を記入。毎日の生活記録には本人の訴え、変化行動に対して、職員の気づきや対応を記入し、見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かしてお客様にとって負担となる受診や、入院の回避、早期退院の支援等をして生活の継続をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との連携はあまりない。 ごく一部のお客様は年に1回の町文化祭に自主作品の出展をしている。このような場を設けることができるように行政の支援を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。	殆どの方が日野病院がかかりつけ医となっている。利用者の希望に副って、江尾の歯科への受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する法人内の施設看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下やIADLの低下を防ぐため、PSWと話す機会を持ち事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を尊重しつつ、事業所で出来ること、出来ないことをきちんと説明している。	現在、法人の基本方針としてターミナルケアは行わない。事業所としてできうる最大のケアについて家族に対し、入所時及び、機会をとらえて説明を行っている。	十分な説明はされているが世間でのターミナルということに関する情報も多く出るようになっているしもっと柔軟な支援を望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法の勉強会は定期的に行なっているが、非常に不安であるという声が多い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行っている。変わった事等あれば地域の方より報告、連絡、協力がある。 水害については、明確になっていない。	年2回消防訓練及び非難訓練を行っている。今年度から利用者全員が参加しており、より「実際」を想定した訓練となっている。併設の同法人の施設職員と協力体制がある。備蓄については、日用品の他、アイソトニック飲料、栄養調整食品や乾麺などがある。	避難訓練及び、災害時に地元の消防分団、地域住民の協力も得られるよう、働き掛けが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについてミーティングで話し合い、マニュアルは取りやすい場所に設置している。 気づいた時にその場で指導している。	高齢者の人権尊重について職員は理解しており、実際の関わり方についてミーティングで話合い、意識の徹底をはかっている。記録の他、個人情報の取り扱いについて適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりに合わせた声かけを行い、本人が納得されたことを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中で、1人ひとりに合った個別の支援をしている。 1人ひとりにどう過ごしたいかの意見を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好むおしゃれが出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	役割提供にて、準備、片付けを一緒にしている。 季節感のあるものをメニューに取り入れ工夫している。	職員も利用者と同じテーブルに着き、同じメニューを楽しみながら支援をしている。献立は、職員が利用者の好みを取り入れて旬の物を中心に作成している。力量のある利用者は一緒に食事の準備や後片付けを行っている。	時々、法人の管理栄養士に献立の内容に目を通してもらうと参考になるのではないでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は把握している。 カロリー、栄養バランスについては栄養士が常駐していないためきちんとしたことは出来てない。 塩分等、取り過ぎには注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとりの持つ力に応じて、声かけ、歯磨きの支援をしている。必要に応じて歯科受診を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導してる。	一人ひとりのパターンを把握し、排泄の支援を行っている。記録も整備されている。夜間もできるだけオムツを使用しないような支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ココア、バナナ、麦飯等提供し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞いて提供している。 入浴拒否がある方には、どんな声かけをしたら良いのか話し合い提供できるようにしている。	毎日入浴を希望する利用者には、希望に沿っている。その日の一人ひとりの希望を聞いて支援をしている。異性介助、順番についてトラブルはみられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調やリズム、希望に応じて休んで頂いているようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後、処方内容を必ず把握し、申し送り、記録と共に特に服薬が変わった場合は日々の中でも記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの得意分野に応じた場面を作り、役割として取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそえるよう天候やそのときの気分に応じて買い物や散歩、ドライブ等外出して頂いている。	現在は、インフルエンザ流行期でもあり、外出を控えている。通常は、買い物に行きたい利用者には、食材の買い出しに同行してもらっている。花回廊や滝山公園へ、天気の良い日には、出かけている。日帰り温泉ツアーは利用者に大変好評であった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かり等は行っていない。 1名自分でお金を持っておられる方がおられ、買い物等で希望されることがあり、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙やFAXの支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下の飾りつけは、お客様と一緒に考えて作ったり、花を置いて家庭に近い空間を作れるよう工夫している。 箸、ランチョンマット、湯のみを常に使える場所へ置き生活観がある。	居間、食堂、廊下など共有空間には利用者の作品を中心に手作り品が多く飾られている。居間、食堂の続きに、冬には堀炬燵になる畳の間がある。廊下には石庭風空間があり和風の雰囲気十分。居間で活動するのにやや手狭な感はあるが、職員力でカバーしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を昼寝場所として、休んで頂いたり、お茶をゆっくり飲めるスペースになっている。 玄関先の花壇に季節の花を植えたり、椅子やテーブルを置きお茶を飲んだり、事務所にも気軽に立ち寄れるよう戸を開放している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや、好みのものを持ってきて頂けるようお願いしている。	居室は畳敷き及び襖で、高齢者にとって心やすらげる空間となっている。装飾品や家具は、利用者の個性に合わせた設えとなっている。車椅子利用者には畳を敷物でカバーをひくなどして工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を防ぐ為わかりやすい言葉での声かけを行い、出来ることはして頂けるよう支援している。		